

かん水について



令和5年
南丹農業改良普及センター

**早くも梅雨が明けて、暑い日々が続いています。
栽培管理も大事ですが、熱中症対策も忘れずに！**

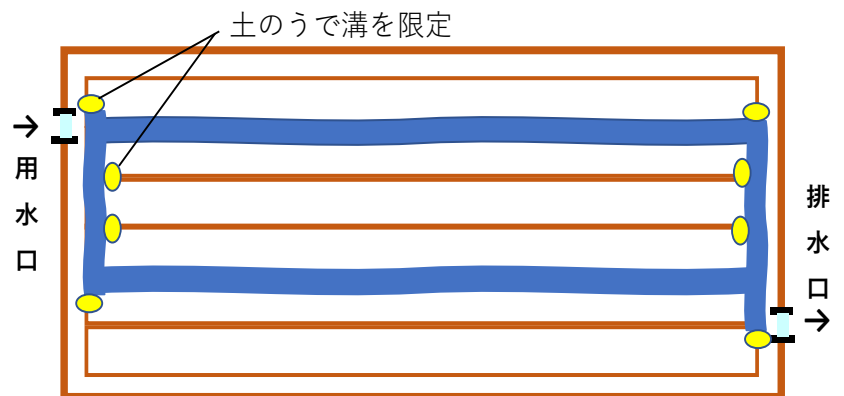


かん水について

- 今年は梅雨明け前後は、好天の日が続き、気温も高いことから、黒大豆にも乾燥・干ばつの被害がちらほら見られます。
- 黒大豆は多量の水分を必要とする作物であり、その要水分量は水稲の2倍とされています。
- 7月下旬からの土壌水分安定が莢付きの分かれ道であり、水分不足により、花落ちや莢落ちが発生します。干ばつ時にかん水を適期にどれだけ行ったか(水分コントロールができているか)が、増収の決め手です。
- かん水の目安・・・
 - ①梅雨明け頃から7～10日おきを目安に、10月中旬まで
 - ②畝の表面を3～4cm程度掘っても、土が乾燥している
- かん水方法・・・
 - ①うね間に停滞しないように通し水をして速やかに排水しましょう。
日中（高温時）にかん水すると根を傷めますので、夜間から早朝にかけての涼しい時間帯に実施し、朝にはうね間に水が残っていないように。
 - ②畑が大きく、畑の端まで水が届きにくい場合は、土のうなどを活用して水を流す畝を限定することで、短時間でほ場の端まで水を通すことができます。



畝間かん水の様子



土のうなどを活用して水を流す畝を限定的に

表 黒大豆栽培における水管理ポイントについて

<p>初期生育期 (～7月下旬)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 過湿条件は根粒菌の生育を阻害するため、生育が阻害されます。十分な排水対策が必要です。 ○ 梅雨の時期は特に過湿条件になりやすい。
<p>開花期～莢伸長期 (8月上旬～9月中旬)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乾燥条件では花落ち等が助長され、着莢率が減少、収量が低下します。 ○ 梅雨が明けると雨の降らない時期が続き、土壌が水分不足となる危険性がありますので、畝間かん水の実施を検討してください。
<p>子実肥大期 (9月中旬～10月中旬)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子実の肥大には多量の水分が必要です。 ○ 秋雨時期で降雨の多い時期ですが、土壌水分に注意してください。